

# 中国四国教育学会第 69 回大会報告

中国四国教育学会事務局

〒739-8524 東広島市鏡山 1-1-1

広島大学大学院教育学研究科教育学講座内

cssse@hiroshima-u.ac.jp

## 第 69 回大会を終えて

会員の皆さま、2017 年 4 月より学会長を務めています坂越です。山崎博敏前会長のあとをうけ、鈴木理恵事務局長、鈴木由美子編集委員会委員長、班婷（ハン テイ）事務局幹事、張磊（チョウ ライ）事務局幹事に支えられて、9 か月学会を運営してきました。

先般、11 月 25 日（土）、26 日（日）に開催された第 69 回大会も多くの会員の皆さまのご協力をいただいて充実した大会を開催することができました。とりわけ会場校をお引き受けいただいた広島女学院大学の松浦正博実行委員長、中村勝美実行副委員長をはじめ、神野正喜会員、大橋隆広会員、戸田浩暢会員、森保尚美会員には深甚の感謝を申し上げます。

今年度の大会では、29 の自由研究発表部会が編成され、172 件の発表申し込みがありました（直前を含めて 10 件の発表辞退があったのは少々残念でしたが）。また大会校企画の公開シンポジウムと 4 件のラウンドテーブルもあわせて実施されました。2 日間で 316 人と多くの参加者をえて盛大な研究大会となりました。自由研究発表では部会をどう編成するかということが事務局の大事な仕事なのですが、今回、「教師」関係、「幼児」関係、「教育史」関係、「音楽」関係部会がそれぞれ 3 部会設置されたのは、教育学研究の 1 つの趨勢を示すものでしょうか。各部会ではいつもの研究室単位の研究会とは違う異文化交流が特徴的でした。

公開シンポジウムでは、中村勝美会員と大橋隆広会員の企画司会により、「社会保障と教育の接続をめぐる」をテーマに、シンポジストに京都大学倉石一郎先生、東京大学仁平典宏先生、広島市内中学校濱本行治先生 3 氏に登壇いただき、また広島大学三時眞貴子先生を指定討論者として、中身の濃い研究討議が展開されました。教育と福祉の連携、子どもの貧困問題は今日的で重要な問題でありつつ、教育の論理が脆弱な子どもや若者をさらに追い詰める事態も懸念されます。この問題の先導的な研究者と学校現場教員との研究討議は、フロアの多数の会員にとって大きな刺激となりました。

ラウンドテーブルのうち 3 件は学会の「課題研究」助成対象の成果報告であり、(1)「エビデンス」への向き合い方を問うことが教育学研究の方向性を考えることでもあるという問題提起、(2)「研究×教育×社会貢献」の場をどうつくるのかの課題取り組み、(3)「道徳」担当教員をいかに養成するかの開発研究、いずれも若い研究者たちの熱気に満ちた提案に中堅・シニア（会長のこと）を含めた参加者も巻き込まれ、活発な討議が展開されました。もう一つの(4)教職大学院における「学校マネジメント」教育に関するラウンドテーブルでは、中国・四国・九州地区に相次いで開設された教職大学院教育で重要な位置を占める「学校マネジメント」について、実践に基づいた報告、さらに各大学で活用できる提言が論議されました。

会員数が 760 余人にのぼり、多様な教育学分野の研究者や学生が参加する本学会が、そのスケールを活かしてさらに活発な研究活動の場になるよう、また若手からベテランまでの会員が新たな研究刺激を受けて明日からの自らの教育研究をエンカレッジできるよう願っています。今後とも会員の皆さまのご支援をお願い申し上げます。

【会長・坂越正樹】

## ○自由研究発表・公開シンポジウム・ラウンドテーブル

自由研究発表は、計 29 部会で 172 件（うち取り消し 10 件）の発表が行われ、各部会において活発な議論が交わされました。

大会一日目の午後に設けられた今大会の公開シンポジウムは、97 名の参加者がありました。シンポジウムは「社会保障と教育の接続をめぐって」と題し、教育と社会保障について、それぞれ両者の関係を切断する立場、むすび直しを模索する立場から、また、学校現場で学力不振や不登校の問題に対応してきた現職教員の立場から議論がなされました。司会の中村勝美氏（広島女学院大学）により趣旨説明がなされた後、シンポジストである倉石一郎氏（京都大学）、仁平典宏氏（東京大学）、濱本行治氏（広島市中学校・広島大学大学院）より、「生活・生存保障と教育のむすび直し・再論—公私融合の現実はどう立ち向かうか—」（倉石氏）、「＜教育＞の論理・＜無為＞の論理—生政治の変容の中で—」（仁平氏）、「＜教育＞の現場から—中学校における教育と社会保障の境界—」（濱本氏）をテーマに発表がなされました。その後、指定討論者である三時眞貴子氏（広島大学）からの提起「＜教育＞の拡散と生存保障—イギリス教育史の立場から—」を中心に、議論が展開されました。

大会二日目の午後には、4 件のラウンドテーブルが開催されました。テーマはそれぞれ以下のとおりでした。①「「エビデンスに基づく教育実践・政策」と教育学研究の行方—エビデンスを「つくる」「つたえる」「つかう」に着目して—」、②「研究×教育×社会貢献を架橋する＜場＞は誰がどのように創るのか」、③「「考え、議論する道徳」を担う教師の養成・研修に向けた読み物資料の検討と提案—中学校用教材「銀色のシャープペンシル」を活かした多様な授業方法の開発—」、④「教職大学院における「学校マネジメント」教育の課題と展望」。

## ○理事会・総会報告

理事会は、大会前日の 11 月 24 日（金）18 時 30 分から広島女学院大学文学館第一会議室において開催され、役員 10 名と事務局幹事 2 名が出席し、総会に提出する事項についての審議等が行われました。

総会は、大会第一日目の 11 月 25 日（土）に、広島女学院大学人文館 302 教室で開催されました。広島女学院大学学長湊晶子先生よりご挨拶をいただいた後、事務局から各種報告が行われ、続いて 2016 年度決算報告・会計監査報告、2017 年度予算案・中間決算報告、次年度大会校、副会長の改選についての審議がなされ、全て原案通りに承認されました。総会の進行は以下のとおりです。

### 中国四国教育学会・総会

1. 開会の辞	(事務局 長)	鈴木 理恵)
2. 会長挨拶	(会 長)	坂越 正樹)
3. 大会校挨拶	(学 長)	湊 晶子)
4. 議長団選出	(事務局 長)	鈴木 理恵)
5. 報告事項		
(1) 事業・会議報告	(事務局 長)	鈴木 理恵)
(2) 研究推進事業報告	(事務局 長)	鈴木 理恵)
(3) 編集委員会報告	(編集委員長)	鈴木由美子)
6. 審議事項		
(1) 2016 年度決算報告・会計監査報告	(事務局 幹事 (監 査	張 磊) 卜部 匡司・ 吉田 香奈)
	/代理報告	事務局 長 鈴木 理恵)
(2) 2017 年度予算案・中間決算報告	(事務局 幹事	張 磊)
(3) 次年度大会校および副会長・役員の改選について	(会 長)	坂越 正樹)
(4) その他		
7. 議長団解任	(事務局 長)	鈴木 理恵)
8. 閉会の辞	(事務局 長)	鈴木 理恵)

## ○次年度大会のお知らせ

次年度の第 70 回大会は、平成 30 年 11 月に島根大学を会場として開催される予定です。詳細は追ってお知らせいたします。会員の皆様のご参加をお待ちしております。